

3

避難所や仮設住宅での注意点

■ 周りの人への配慮

これまでの災害では、動物がいることによってつらい避難生活の中での心の安らぎや支えとなったという声がある一方、吠えてうるさい、咬まれた、毛が飛んで不衛生などといったことが原因となりトラブルになることもありました。

避難所にはたくさんの方が集まります。動物が好きな人、嫌いな人、動物のアレルギーを持つ人、動物に不用意に手を出しかねない幼い子供など、多様な人々が一緒に暮らす場所ですから、動物の飼い主は普段よりも周りに配慮することが求められます。

避難所では、動物の世話やフードの確保、飼養場所の管理は飼い主の責任の下に行うことになります。衛生的な飼養管理を行うことはもちろん、周りの人に配慮したルールを作り、飼い主同士が協力して助け合いましょう。

また、仮設住宅への入居に先立って、動物飼養ができるエリアと飼養禁止のエリアを分けておくことができれば後の飼養にかかわるトラブルも少なくなります。

避難所や仮設住宅でのチェックポイント

- 「ペットの会」をつくるなどして、飼い主同士が協力しましょう
- ペットフードなどの支援物資の配布など、情報を共有しましょう
- 災害ボランティアによる支援を活用しましょう
- 動物が飼えるエリアでも、吠え声や排泄物の処理など近所の方への気配りを忘れないようにしましょう



■ 動物の健康管理

災害時は人も動物も多大なストレスを感じていますし、物資も不足します。免疫力が低下したり、衛生を確保することが難しい場合もあるため、人も動物も体調を崩したり病気が発生しやすくなります。動物の排泄は決められたところでさせ、速やかに処理するなど、できる限り衛生に注意しましょう。

動物もストレス下にあるため、むやみに吠える、周りの人を怖がり攻撃的になる、食欲がなくなる、排泄をしない、下痢をするなどの問題が出てくる場合があります。体調に気を配り、不安を取り除くよう心がけましょう。

！ 車中避難ではエコノミークラス症候群と熱中症に注意！

自家用車の車内のように狭い空間で長時間じっとしていると、脚の血の流れが滞って小さな血の塊ができ、それが肺などに詰まる**エコノミークラス症候群**になる危険性があります。定期的に車外に出て運動したり、水分をこまめに摂って血の巡りをよくするように心がけましょう。

熱中症にも注意して、換気や水分補給を十分に行うようにしましょう。晴天の日はもちろん、曇天や外気温がそれほど高くない日でも、車内温度は思ったより上昇します。特に動物だけを車の中に残すときは、車内の温度に常に注意し、飲み水をたっぷり用意しておきましょう。



- 熱中症の動物の主な症状：意識がない、意識があっても倒れたまま動かない、体が異常に熱い、息が荒い、舌が異常に赤い など